



桐生ロータリークラブ週報

2009年

国際ロータリー第2840地区 2008-2009年度 国際ロータリーのテーマ



Make Dreams Real

R.I 会長 李 東 建 (D. K. Lee)

善意というものがいいなら
ロータリークラブは唯の社交クラブだ。
職業は金儲けのためでしかなく、
社会奉仕というも施しにすぎず、
国際奉仕は外交以外の何ものでもない。

パストガバナー 前 原 勝 樹

会長 正田 博之 幹事 松島 宏明

クラブ会報・広報委員会 大友 一之・竹内 康雄・木村 滋洸・肥塚 俊成

3月16日号

第2685回例会

(3月9日(月) 第2例会)

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. 点鐘 | 6. 幹事報告 |
| 2. ロータリーソング齐唱 | 7. 委員会報告 |
| 3. 来訪者紹介 | 8. 卓話 「日頃思うこと」 |
| 4. 出席100%表彰 | 第43代会長 矢野 昭君 |
| 5. 会長の時間 | 9. 点鐘 |

出席100%表彰

野間 義弘君 4回



会長の時間

桐生RCの記念すべき日に例会が開かれることになります。先週、情報アワーで金子バスト会長からも話しがありましたが今日は1953年3月9日(昭和28年)に桐生RCとして仮発会式が当桐生倶楽部で行われ3月27日にR Iへの加盟承認され、日本で97番目と言うことですが誕生56年になります。

現在会員は66名ですが、平均年齢59才という事で半分近くの会員はクラブ発足後に生まれていることになります。いかに歳月を重ねてきたかが実感されます。

今日はそう言うことで総合企画特別委員会野間委員長、出席委員会岸田委員長、S A A等にお願いして出席100%例会を目指しております。結果は後ほどになると思いますが楽しみにしております。

また、卓話はバスト会長の矢野君にお願いしてありますのでよろしくお願いします。

最後にインフルエンザ情報ですがそろそろ終息に向かってはいますが先週も市内の小学校で学級閉鎖があつたりして、全国的にもA、B型が混在して発

症してますので気をつけてもらいたいと思います。

幹事報告

- 桐生第一高校と樹徳高校より卒業式の祝電のお礼状が届いております。
- わたらせ養護園より中村美津子コンサートのお礼状が届いております。
- 桐生南、桐生中央、桐生赤城の各RCより週報到着。
- 次週3月16日(月)の例会は、桐生第一高校IACとの交流会です。夜間例会で午後6時食事・午後6時30分点鐘ですので、皆様お間違いないようお気を付け下さい。

委員会報告

出席委員会

本日の出席(平成21年3月9日)：総員66名・出席63名
平成21年2月23日例会修正出席率：85.0%

ニコニコボックス

館 盛治君…小倉君を始めすばらしいメンバーが出席し、桐生RC例会も大変盛り上がっててくれると思います。やはり出席はロータリークラブを楽しくするものですね。/正田博之君…本日は卓話で矢野昭君にお世話になります/藤井征夫君…出席100%例会を祈って/野間義弘君…出席100%表彰に感謝して/小島弘一君・中村俊介君・高橋 昇君・木村滋洸君・小倉康宏君…結婚祝/岡部信一郎君・中村俊介君・高橋 昇君…誕生日祝/岡部信一郎君…写真を

例会場 桐生倶楽部 TEL45-1513 例会日 毎月曜日 12:30PM

ホームページ <http://www.kiryu-rc.org>

メール info@kiryu-rc.org

戴きました。

卓話



「日頃思うこと」

第43代会長
矢野 昭君

金儲け談義

厳しい情勢の中で経営のご発展に日夜ご努力を傾けておいでの方々にお金の性格をお話しします。

お金は天下の廻り持ち、貯めるも散らすも心がけ次第、貯め上手には集って、へたな人は倒産だ、取扱いが難しく運用ペタなら減る一方。殖えないのなんのって、下手にいじればすぐ消える、使い方のむずかしさ、こき使ったら逃げ出すぞ。こういう厄介なしろものです。さてそれが欲しいのなら、お客様が肝要です。親父と思って尊敬し、お袋さまと思って大事にし、殿さま同様にお仕えし、兄貴と思って一目おけ、弟のように可愛いがり子供のように大事に育てあげ、お金に勝る友はなし。

こういう具合に待遇されればお金の方でも感激して、類は友をよんで貯まること。鳥が夕方に林に群がり帰るよう、けものが水辺に集るようにお金が集ってくる。だがこれに安心してはいけません、貯めたあとが又一段と肝心です。お金は傷口と心得て、メッタにのぞき見しなさんな、金庫にしっかり閉じ込めて、カギを厳重にかけておけ、やむを得ず使う時は小額でも毛一本一本抜くごとく、大金の場合は腹でも切るごとく、悲想な気分で使わにやいかん。それでもお金は使いたくなるのが人情だから。

色悪い無用。着倒れ食い倒れ共にいけません。何事も簡素々々が大事、「ああコリヤ、コリヤ」などもってのほか、骨董屋、パチンコ屋の前は素通りの事。次に酒飲みには「酒飲むな酒飲むな」と意見され、「たまにや付き合えいいじゃないか」もいけません。それでお酒の好きな人はムカムカしてきて、それならばそもそもお金の貴いのは、使えるからじゃないのですか？貯め込んで使わないのなら、無いと同じじゃないですか？それじゃあいくら貯めても一生金庫番ってことでしょう、そんなことなら今まで通り素寒貧の方が泥棒の心配がないだけでもマシです。という次第と相なりました。

経済学の教えるところによればお金には「使う事(交換用)と貯める(富の蓄積用)との二通りの性質がある。前の話では或る人はお金は使わなければ意味がないと心得、又或人は金権を握るために貯めると心得る、どちらもお金の持つ目的を果しているのだから甲乙ないはずである。だが貯めたり儲けたりする方が使うよりもむずかしい、だから金儲けの講義はあるが金使いの講義はないでしょう。

過去に神武景氣、岩戸景気等超好況期には工場を増設したり商売を拡げるのはどうか等と反省する気にはなれなかった、又他の企業もそうするし又そうすればひとりでに儲かったからである。証券業者の推奨株を買っておれば面白いように儲かった。先ず買う事であったのであります。

ところが今日は儲からなくなってきた、少くとも儲けにくくなってきた。工場を拡げ人を殖やし借金まで多くして、その結果会社は大きく成長したはずだが、さて儲けの方は思わしくなくなってきた。そうなれば始めて儲けることの根本義を真剣に考える

ようになる。企業の目的は、先ず何よりも儲ける事にあると言うようになりました。今まででは企業の社会的責務等という、つかまえどころのない、あやふやな事を言っていたから、まぎれが多かったが「儲ける事」だとなれば話は簡単明瞭で企業は儲けることで「社会的責務」が果せる仕組である。

人々の喜ばないものや不便なものを造ったらメーカーは決して儲からない。人々が欲しがらないもの、生活向上に役立たないものを仕入れたら商人も儲からない、だからメーカーや商人が儲ることはお客様に満足してもらう事で社会的貢献をした証明となる。その上儲けて大口に税金を払い社員の給料を引上げ寄付したりすれば、いよいよもって社会全体に貢献することになって、いわゆる企業の社会的責務が果せる訳である。だから儲からない限りは経営者の責任は免れない。儲からないでは「社会的責務」が果せない上に更に債権者や株主にも申し訳がたたなくなる。儲ける建前で金を借りたり払い込みを取ったのだから当然の事である。儲けることの下手な経営者は債権者や株主や社員から退陣を要求されたり、自分から引退せざるを得なくなる。それも又やむをえない仕儀である。お役所に比べ企業は能率が良いのは上から下まで、この儲けることの責任という筋が一本貫通しているからである。

ここえきて不況のおかげで企業経営の根本義がハッキリしてきた。先ず儲ける事、儲からなかつたら責任を痛感すること上から下まで明確になってきたのだから不況もまんざら悪い面ばかりでないものである。財産家には金持ちと物持ちの2通りあるように儲けの方にも金儲けと物儲けの2通りがある。徳川時代には大家や地主が物持ちで物の財産が巾を利かせた時代であるがその頃町人商人はせっせと小判を貯めて千両箱を殖やすのに精を出した、小判を制する者は経済界を牛耳ると知っていたからこの方が金儲けの本義に通じていたのである。

物儲け金儲けはどちらにしても儲けた財産が殖えたことには変りがないが物を殖したところでそれを売ってお金に変えるか、売らない迄もそれをお金に評価替えをしてみてそれで儲かったかどうか決める事になっているのである。

評価で儲かったといつても「勘定合って錢たらず」の儲けでいつ暴落を喰って元の木阿弥になるかわかったものではない物儲けの段階では金儲けとはいわない。金儲けの要は殖えた物儲けの始末をうまくつけてやることであります。

戦前の日本のチャンピオン企業は紡績を始めとしてフンドレンに手許現金を持っていた。だから不況にも耐え得る事が出来又長期計画で未開拓市場で活躍してもゆかれた。戦後は少し物儲けや評価儲けに熱中しすぎたようであると思います。

最後に、金儲けには近江商人の商取引の鉄則である。「三方良しの精神」即ち「売り手良し 買手良し その他良し」この精神が必要条件だと思います。

又明治の大実業家の渋沢栄一翁の言葉に商人は右手にそろばん左手に論語と言つておられます。両手にそろばんは商人のるべき取引でないと言っておられます。

以上をもちまして、金儲け談義を終ります。

* お知らせ *

【次回例会予告】3月23日(月)卓話

・(社)桐生青年会議所 理事長 長谷川博紀様

「青年会議所について」